

芸術学科会

銅版画講座を開催しました

版画講座には何度か参加していますが、毎回あっという間に時間が過ぎて、時間が足りません。それだけ集中して没頭できているのだと思います。

学生時代のように教室内を駆け回って温かくご指導してくださる趙先生、ユーモラスな刷り師の白井先生、素敵な同窓会生の方々と共に制作の喜びを味わうことができ、大満足の講座でした。版画を制作する過程で、学生時代の思い出が沸々と蘇ってきました。課題

に追われた日々、緊張の講評会、芸術制作に向き合えた学生時代がいかに贅沢な時間だったかと、しみじみと実感しました。

また、芸術学科が改組され、短大が閉学してからも、私たち同窓会生の思い出が詰まったプレス機を大切に保管・管理して下さっていることを、嬉しく思いました。

銅版画は、特殊な機材や画材が必要なので、思い立ったら気軽にできる技法ではなく、こういった場は大変貴重であり、これからも引き続き参加させていただきたいと思っています。どうもありがとうございました。

大坪笑美 (平20A)



銅版画講座風景

淀井彩子先生・阿久津光子先生 特別講座 マチスのようにコラージュ作品をつくらせてみよう!

日時：6月29日(土) 10:00~15:00 (昼休みを含む)

場所：ジェンダー研究センター 多目的スペース
(旧短大染織実習室)

定員：10名

参加費：2,000円※必要な方はエプロンをご持参ください。

お問い合わせ・お申込み：aotangeijutsu@gmail.com

20世紀を代表するフランスの芸術家アンリ・マチス。晩年、病のため絵筆を使うのが難しくなり、自ら彩色した色紙からハサミで形を切り出す手法を考えだし、コラージュ作品を制作。「色彩と形を同時に手にいれることができた」新しい発見でした。私たちもマチスのように、切り絵コラージュ作品をつくらせてみましょう!

学科会総会のお知らせ

日時：5月18日(土) 10:30~11:30

場所：ジェンダー研究センター 多目的スペース
& オンライン (zoom)

お問い合わせ・お申込み：aotangeijutsu@gmail.com

掛井五郎先生を懐かしむ時間を皆さままで持ちたく、後期に以下、2つの特別企画を考えております。会報50秋号に詳細を改めて掲載します。

- 橋本典子先生特別講義 10月26日(土) 予定
- 掛井五郎先生展覧会 11月22日(金)~12月1日(日) 予定

掛井先生との思い出~「こんなものは絵画ではない!」

1989年、昭和64年、平成元年。青山学院女子短期大学芸術学科の一期生として入学した。

掛井五郎先生、馬淵明子先生、橋本典子先生、平井照敏先生、田島俊雄先生、馬越陽子先生の主要教師陣による、50号の油彩絵画の前期講評会でのことである。生まれて初めての講評会。一体、いかなる厳しい指摘をされるのだろう、と私は恐れと好奇心に満ちていた。

掛井五郎先生はこのようにおっしゃった。

「こんなものは絵画ではない!」

高校生まで、自分の作品に対する評価とは、うまいか下手か面白いのか、その程度であった。ある作品に対する評価とは、このように全体を解釈する行為なのだと感じた。作品として成立しているか否か。

そのように自分の作品を俯瞰的に観ることは、この講評会の日まで経験したことがなかった。

掛井先生は、また次のように続けられた。

「ここ、この部分だけが絵画として成立している」私の作品の左上の部分に指差した。背景として僅かに空気感が描かれている部分を少しだけ褒めてくださった。

2024年1月。その当時のことを回想すると、それは一学生の作品を、上質な作家の作品を鑑賞するのと同じ鑑識眼で観た、手加減なしで評価の対象として対峙して下さったということである。

掛井五郎先生のこの一言は、現在に至るまで作品を創る上で、常に自問していることである。

麻田 牧子 (平1A)